

[タイム] 袖の窪山山頂(12:00)→下降開始(12:10)→二俣(14:55)→霧来沢出合(16:00)

二の平沢

1989年8月26日

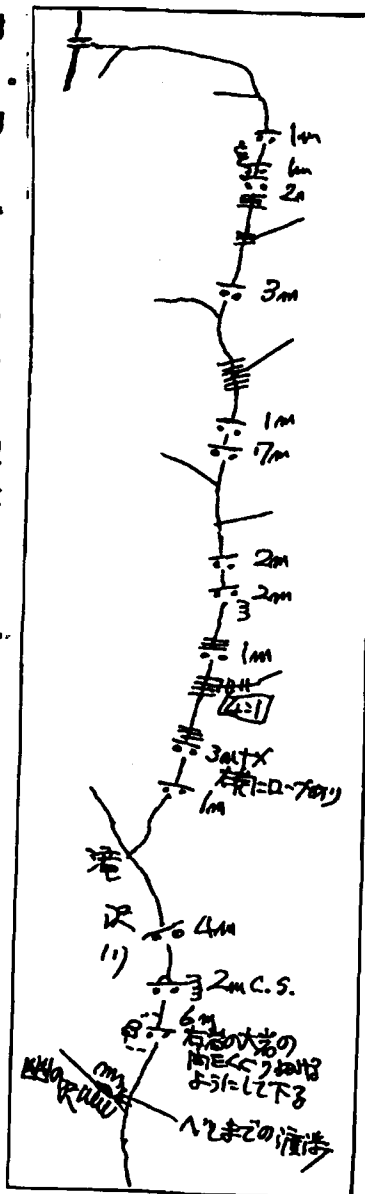
Li

13:10二の平沢の下降開始。稜線直下から小沢の流れが始まっている。所々ナタ目があり、この沢を通う人がいるようである。樹林帯の中の細い流れが続いて、どんどん下ってゆく。30分程下った所で1mの滝が出てくる。この沢最初の滝であるが、なんとも規模が小さい。

更に30分程下ると、7mの滝。この沢最大の滝であるが、左岸を楽にクライミングダウンできる。とにかく、この沢は滝に乏しい。二の平沢というくらいだから、平坦な場所を流れているのだろうと話しながら下降を続ける。

右岸に針金を張ってある3mナメ滝を下ると、沢はまったく平坦な流れとなった。そしてアシの群落が見られる。アシは河原全体を覆うように茂っている。このあとすぐ滝沢川本流との出合となった。

滝沢川はアシ原の中をゆったりと流れている。今日の行動は事実上これで終わりだと誰もが感じた。ところがである。この先もう一つのハイライトが我々を待っていた。まずはなだらかな流れが早瀬に変わる。そして4m滝。本流だけに水量が多く、迫力がある。その下のチョック滝は腰まで水につかて釜を渡る。そして最大のハイライト、6m滝。右岸に巨岩が重なり、一見簡単には下れそうにない。しかし、巨岩と巨岩の間の穴を潜りぬければ、そこから下は簡単に下れた。本流のハイライトはこれで終わり。すぐ幽の沢出合。幽の沢は出合が廊下になっている。幽の沢右岸の登山路に上がろうと思って少



しだけ入り込んだら、腰までの波渉となった。16:10登山路に上がり、下降終了。

[タイム] 下降開始(13:10)→滝沢川本流(15:35)→幽の沢出合(16:05)→林道(16:25)→滝沢(16:55)

八溝山周辺の沢

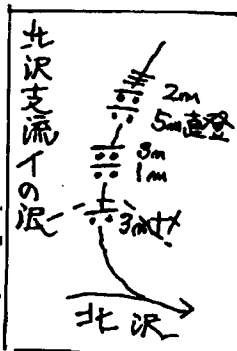
北沢支流イの沢

1989年7月8日

さて、北沢流域の支沢の遡行調査の最後を飾って、イの沢(仮称)に入る。この沢は当初調査予定に入れてなかったのであるが、北沢左岸の踏跡のすぐ上部に連続して小滝をにかけているので、急拠遡行対象とした。でも結局のところ、踏跡から見えていた小滝を直登したら、その上ですぐ水もなくなってしまう短い沢であった。小滝そのものは、適当にスタンスがあり、楽に直登できる。

(記)

[タイム] 遡行開始(12:00)→終了(12:10)→山本不動尊(12:30)



北沢支流ニの沢右俣、左俣

1989年7月8日

八溝山系宮川流域北沢の支流群の調査も、いよいよ最終段階。今日ですべて完了させるつもりである。まだ人気のない山本不動尊を早朝5時に出発。25分でニの沢(仮称)出合に着く。すぐに遡行開始。

まず出だしの4mナメ滝を直登。よく磨かれているが、フリクションをきかせて直登する。花崗岩はフリクションがよくきいて、気持が良い。そのすぐ上の3